

ごあいさつ



平素より大阪信用金庫をご愛顧いただき、誠にありがとうございます。

当金庫の経営内容をご理解いただくために、ディスクロージャー「DAISHIN DISCLOSURE 2026 ～だいしんの現況～」を作成いたしました。

経営方針や業績、地域貢献活動などを分かりやすくご案内しておりますので、ぜひご覧ください。

2025年度の日本経済は、「金利のある世界」が本格的に定着し、企業の資金調達環境や個人の資産運用動向に変化が生じる年となりました。加えて、米国の関税政策を背景に、国際経済の不確実性が高まり、景気の先行きへの懸念が広がりました。

大阪では、「大阪・関西万博」の開催により、インバウンド需要の拡大など明るい話題が見られました。当金庫におきましても、大阪商工会議所と連携し、リボンチャレンジ「身近な課題や世界のお困りごとを大阪の町工場が解決します!」を企画。出展される企業を全力でご支援いたしました。この企画を通じて国内外に発信いたしましたお取引先企業の優れた技術力や創意工夫が、今後の商品・事業化の実現につながるよう引き続きご支援してまいります。

11月には、建設中であった当金庫の本店ビルが完成いたしました。地下1階地上9階建て、延床面積約1万m²の新店は、地域の防災拠点としての機能も兼ね備えています。なかでも8階の「Dホール」は、職員に限らず企業や地域のみなさまにも文化・交流の場としてご利用いただいております。地域とともに歩む当金庫の新たな拠点としての役割を担っております。

一方、中小企業を取り巻く経営環境は依然として厳しく、原材料・エネルギー価格の高騰や人手不足などの課題はますます深刻化しています。また、金利上昇局面において資金繰りや投資判断の高度化も求められています。

このような環境のもと、当金庫は信用金庫の原点であるFace to Faceの精神により、課題解決型支援の体制を一層強化しております。ビジネスマッチングや補助金活用、人材確保、さらには外国人材活用や海外展開など、多様化するニーズに対応した伴走支援にも積極的に取り組んでおります。

また、AI・DXの活用による業務の高度化・効率化を推進する一方、対話や関係構築といった「人の力」を重視し、営業現場における対話の質の向上や、若手職員の育成・挑戦機会の創出にも力を入れ、お客さまにとって最適な提案ができる体制づくりに努めております。

地域社会への貢献においては、「おおさか地域活性化ファンド」を設立し、耕作放棄地の活用や地域産業の育成など、地域活性化活動にも継続して取り組み、持続可能な地域社会の実現に貢献してまいります。

2025年度の業績は、期末の預金残高が2兆4,197億円、貸出金残高が1兆5,749億円となり、業務純益は12億円、当期純利益は85億円となりました。

これもひとえに、みなさまの長年にわたるご愛顧とご支援の賜物であり、心より御礼申し上げます。

当金庫はこれからも、「堅実経営」と「信義誠実」のもと、地域のみなさまに信頼される金融機関であり続けるとともに、時代の変化を先取りしながら、お客さまと地域の発展に貢献してまいります。

今後とも変わらぬご支援、ご愛顧を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

2026年7月

理事長 高井 嘉津義